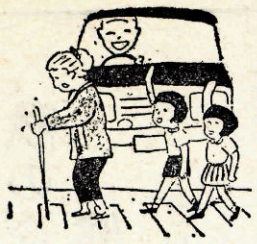


みすみ広報

昭和50年
9月20日
151号

発行所
三隅町広報委員会
発行者　森沢雄治
編集人　田村守

交通安全
特集号

昭和50年の交通安全年間スローガン

（運転者向けのもの）

急ぐほど 減らす燃料 増す危険

○遊んでる 子どもは 走る赤信号
○安全と 資源を守る 経済速度
○こわいのは 急ぐあなたの その心

（歩行者向けのもの）

手をかそう ちっちゃな子どもと お年寄り

○安全は つぎの青まで 待つゆとり
○あんぜんは あせらず あわてず あなどらず
○お母さん 一緒に渡ろう 歩道橋

（こども向けのもの）

とびだすな あのみち このみち こうさてん

○後ろには 乗せるな乗るな 二人乗り
○帰り道 やっぱり通ろう 通学路
○危険だよ！ 忘れ物した 急ぎ道

少年少女の交通安全への願い

交通安全への努力

黒川公一
三隅中二年

今日、またいく人かの尊い生命があの悲惨な交通事故により奪われました。明日も、同じことがあるかもしれません。

しかし、このようなことがいく日も続いて、ほんとうに良いのでしょうか。

今、テレビのニュースで、交通事故のことを見ている人は少なくないと思います。だけど、見ている人は、それをどのように受け、どのように解釈しているでしょうか。ある人は、あわれに思ったでしょう。

またある人は、真剣に見てたかもしれません。そして、ある親は自分の子に対して、このようにならないよう注意したでしょう。

しかし、ほんとうはそれだけではいけないのです。

一時的に、そう思っても忘れがちなのです。一つ例をあげて見れば、子供の飛び出しなどでは、何かに夢中な時に、身を守るのに大切な注意力を失っているからです。

このように、一時覚えていてもいざと言った時、実行できないのがわれわれ人間の一ばん悲しく、くやしい事だと私は思っています。もう一つ、人間とは妙なもので、「少しくらいなら……。」といった考えが頭の中へとりついていて、これが働らくと飲酒運転はするし、信号無視はする。

……全く手におえません。

この少しといった、心の動きから大事故につながることが多いのです。

自転車の二人乗りでも同じことが言えます。「どうせ近くだから……。」「だれも見ていないから……。」「人がやっているから……。」などのことを理由にしてやっているようだが、これは全くよろしくない。

こんなことを言っている自分も、少しは考えさせられてしまいます。

では、こんなことをしている人は交通に対して、全く無関心なのでしょうか。

いいえ、それはちがいます。たしかに、関心はありますがそれ以上に「少しくらい……。」の気持ちが強いのです。

こんな、利己主義的な考え方がまちがっていた。いやまちがいとわかっていてもそのようになってしまっただけかもしれません。

このように、交通安全に対して改めなければならない所が出て来ました。

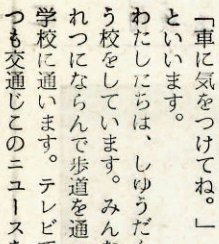
一つは、たえず注意をする。もう一つは、利己主義的な考えはすてる。

われわれはこう言った点をよくし合い、注意し合って生きて行かなければいけないのかもしれません。

歩行者と自動車が一体となり交通のルールを守り、事故のない世界で平和にくらす。

これは、ただの空想ではありません。われわれの努力しだいで実現できるのです。少しでも速く実現しようではないですか。

希望の明日をめざして。



交通ルールをまもろう

上田優子
浅田小三年

「ピーポーピーポ」と きゅうきゅう車の音が聞こえてわたしの家の前を通つて行きました。

お母さんが、「いやな音やね、また交通じこかしら。」といいました。

すると、お父さんが、「また、どこかでやつたな、ようやるなあ。」といいました。

わたしは、どこかで交通じこがあつたのかなと思い少しむねがどきどきして来ました。きゅうきゅう車が通つて行くととてもいやな気もちです。

私も三才の時に交通じこに会つたからです。

お母さんが毎朝、「車に気をつけてね。」といいます。

わたしたちは、しゆうだんとう校をしています。みんな一れつにならんで歩道を通つて学校に通います。テレビでいつも交通じこのニュースを知らせています。見るとスピードの出しすぎや、おさけをのんでうんてんしたとか、子どものとび出しが多いいなと思いました。みんなが、一人一人ちよつと気をつけたら交通じこにならないと思います。

私のお父さんも、お母さんも車にのつてしごとへ行きますお父さんがおしごとでおさけをのんだ時は、お母さんが車でむかえに行きます。

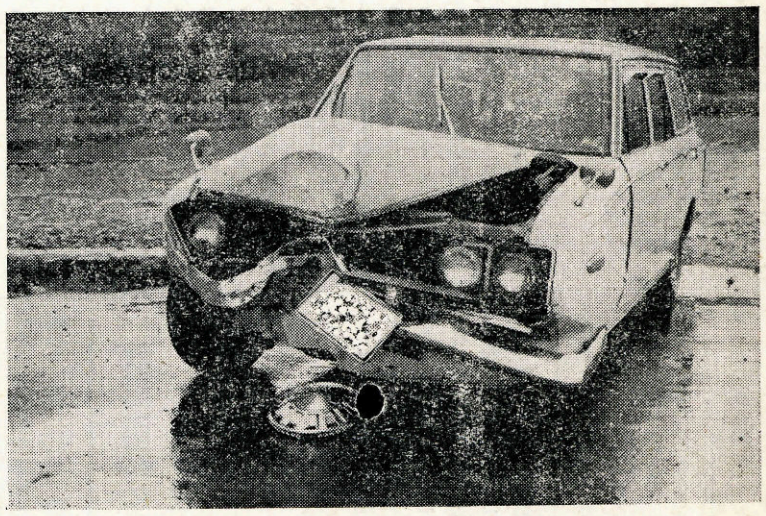
お母さんがいけない時は、バスで帰つたり、遠い道を歩いて帰る時もあります。

ドライブをする時もお父さんは、あまりスピードを出しません。あとの車がスピードを出しておいこして行くと、「ばかだな。あんなにスピードを出して行つてもあまり時間はかわらんのに。」といつています。

私も「ほんとにあの人は、きまりをまもらないわるい人だな。」と思います。

でもお父さんは、きちんときまりをまもります。

みんなが、お父さんのような交通じこは、おこらないと思います。



交通あんぜん

前田美雪
浅田小三年

私は、今ごろの交通を見ておどろいています。

それは、自どう車が多く、とても交通がはげしいからです学校の行き帰りに、じこにあう人が、多いと聞いていますそして、よく下をむいて歩いていたり、雨の日などは、かさを顔の前にさして、前が見えないようにして、歩いている人がいます。

私も気をつけなければいけないと思つています。そして、テレビを見ていても、お父さんがしんで、お母さんと、子どもだけになつてしまつた、かぞくのことが多いので、とてもかわいそうだと思いますおさけをのんで、うんてんした時が一番じこが多いのでおさけをのんだら、ぜつたいにうんてんをしないようにして下さい。

私は、お父さんの、車にときどきのせてもらいます。お年よりの人が、車の前を通つたり、子どもがきゆうに車の前にとび出すのを、見ることがあります。

おとうさんは、「うんてんする人ばかりがわるいのではない歩く人も気をつけなければいけない」と言います。私もそのとうりだと思いました。

車が前からくるのに、おいこしを、するのを見ることがあります。

むりなことはしないほうがいいなと思います。私も交通きそくを、よくまもりたいと思います。車をうんてんする人も、気をつけてうんてんをして下さい。

大人の人に言います。

おさけをのんで、うんてんしないで、スピードを出さないで、交通ルールをまもつて下さい。

じこになつたら、子どもたちが、かわいそうです。

子どもたちにいいます。

とび出しは、やめて、わたる時は、右左をよく見て交通ルールをまもりましよう。

じこになつたらお父さんやお母さんが、かわいそうです。

みんな、交通じこのない明るい町にしたらいいなあと思います。

三隅町の交通安全健民運動推進計画

一、交通安全教育の推進
- 老人の一日交通安全教室
- ヘルメットの着用運動
- 街頭指導
- 一日交通指導員

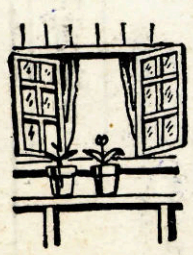
交通安全の呼びかけ

二、自転車利用安全対策
- 自転車利用安全対策
- 自転車通行可能歩道の周知と利用指導
- 反射チョッキ、反射材の着用
- 街頭における自転車点検整備

三、安全施設整備の促進
- 町内危険箇所の点検道路不正使用等の指導

四、交通死亡事故の絶滅
- 飲酒運転の家族ぐるみ追放

五、広報活動
- 安全幕、のぼりの掲出
- 広報車による啓蒙
- チラシの作成配布
- 広報紙の発行
- 各種団体への周知徹底依頼



秋の交通安全 健民運動

9月22日―10月1日

県下一斉に実施

目　的　この運動は県民に交通安全思想の普及を図り正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故の防止を図ることを目的とする

期　間　9月22日（月）から10月1日（水）までの10日間

重点推進事項

一、歩行者　自転車利用者の事故防止、特に老人に交通事故防止の方法を理解させるとともに運転者に老人を守るための運動方法を指導する。

二、自動二輪車の運転者はかならず、原付自転車の運転者もヘルメットを着用するようにすすめる。

三、高速道路を通行する運転者にはシートベルトを着用するようにすすめる。

期間中の日別重点事項	
9月22日	交通安全を呼びかける日
9月23日	歩行者教育をする日
9月26日	自転車を正しく利用する日
9月29日	安全運転を励行する日
9月30日	シートベルトヘルメットの着用を励行する日

〝悲　惨〟飲酒運転の結末

あした困るから酔っていないからもうさめたから、そこまでだからという安易な気持ちが次に紹介する悲惨な飲酒運転事故をおこす原因になるのです。どんな理由があろうとも飲酒運転は絶対にやめましょう。

飲酒のうえ暴走 対向車に激突！

他人の尊い生命を奪う。

Aさん（34才）は仕事を終え、近くの飲食店でビール・清酒等を飲んだのち会社に帰り数時間休憩した。

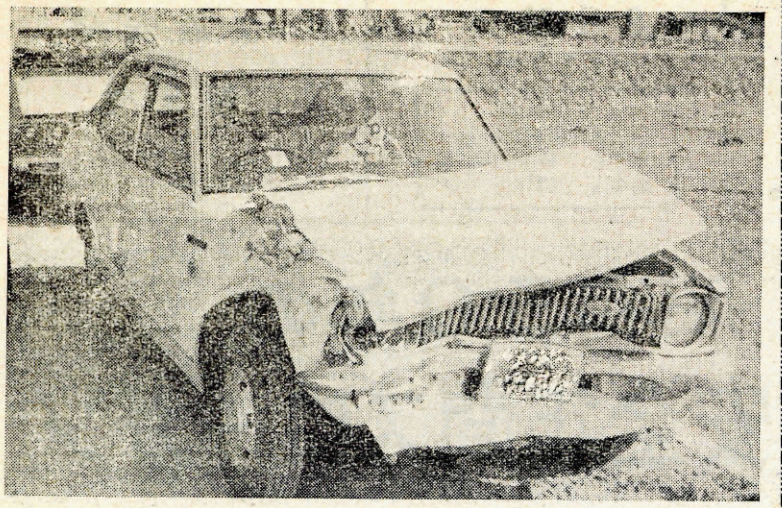
酔いもさめたので運転してもよかろうと考え、自分の車を運転して友人の家に行く途中、酔いのため左カーブが曲りきれず、センターラインを越えて対向車に激突し、まつたく関係のない他人の尊い生命を一瞬のうちに奪い去りました。

ガードレールに激突

Cさん（25才）は会社の同僚と花見をし、ビール等を飲んだが、タクシーを呼ぶのもめんどうだし、これぐらいならだいじようぶだろうと考え、自分の車を運転して帰宅中、酔いのため、ハンドル操作を誤り、ガードレールに激突し、自ら命を失いました。

自ら死亡、同僚2名の生命を奪う

Bさん（27才）は同僚5名とビール、清酒を飲んだが酔っていないから、そこまでだからと考え自己車両に同僚を乗車させて運転、市内に遊びに行く途中、酔いのため運転を誤り、センターラインを越えて対向車に激突し、自ら死亡すると、ともに同僚2名の生命をも奪い去りました。



こんなに多い 三隅町の交通事故

交通事故発生状況　50.9.1

県下の発生状況

今年の累計			昨年同期の累計		
件数	死亡	傷者	件数	死亡	傷者
5358	144	6750	4558	158	5876

長門署管内の発生状況

今年の累計					昨年同期の累計				
件数	死者	重傷	軽傷	物損	件数	死者	重傷	軽傷	物損
159	2	24	193	289	136	3	30	194	281

	件数	重傷	軽傷
三隅町	35	9	4
長門市	86	11	100
日置村	9	2	9
油谷町	29	2	32

〝おさけはうちでのんで〟交通遺児の作文

わたしが3才のとき、おとうさんがなくなつて10かげつたつていもうとがうまれました。いもうとがうまれたときは、おちちもすこししかでなかつた。おかあさんのからだもあまりじようぶではありませんでした。

おかねがないので、おばあさんをつれてきて、おかあさんはおしごとにいくようになりました。おしごとをしているうちにまたからだがよわくなりしごとにいけないようになりました。おとうさんがいてくれたら、からだのよわいおかあさんは、ずいぶんたすかつたでしよう。おさけをのまなかつたらどんなにいいおとうさんでしよう。

くるまや、じてんしやにのつている人は、おさけをのんではいけません。おさけはうちでのむようにしてください。こうつうじこはうちだけでたくさんです。

さんは同僚と飲酒し自己車両を運転して帰宅中歩行者のEさんをはねて死亡させました。Dさんはこの事故により禁錮一年の刑事処分を受け運転免許取消しの行政処分を受けました。またEさんの遺族に対しては損害賠償として一〇〇〇万円を支払いDさんは職を失ないました、その上Dさんは事故に対する責任の苦しみにたえかねて県外に転居していきました。

自転車に反射材をつけよう!!

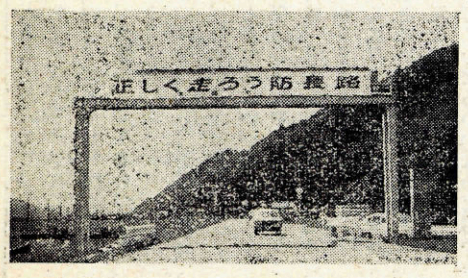
毎年春と秋の交通安全期間中に、自転車の整備点検を実施してきましたが、整備不良自転車が非常に多いのには驚きます。

たかが自転車だからと軽い気持で、いつも自転車を利用されていると大きな事故を招くことになります。

これから日も短かくなります。

自転車を利用される方は、反射材をつけましよう。又反射チョッキの着用もしましよう。

もう一度、あなたの自転車を点検してみましよう。



飲酒運転によつて死亡事故をおこすと一生とりかえしのつかないことになります

夏の社会体育から

○水泳教室

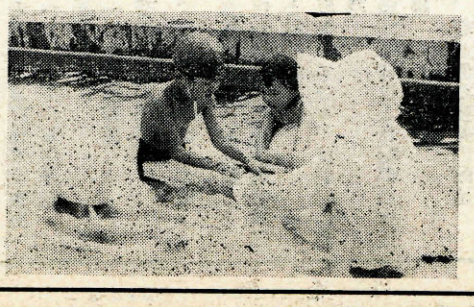
○○ちやんもう少し頑張れ！頑張れ！

八月四日から始まつた幼児の水泳教室の最終日です。はじめは水をこわがつていた子も今は水の中で一生懸命手をかきバタ足をやり、少しでも遠くまで泳ごうと必死です。最もよく泳いだ園児はクロールで一〇〇m以上泳ぎました

今年で五回を数えるこの水泳教室もすつかり定着し、いい指導者に恵まれ修了者はいずれも小学校で最も水泳上手な部類に入つています。

また小さいときにこのようなチャンスのなかつた子のために、七月二十六日より三十一日まで明小プールにおいて水泳教室を開きました。小学校三年以上より中学生まで五十名余り、皆正しい泳法を身につけようと集つてきましたこの二つの水泳教室を見てやはり早い時期に水に親しませ、正しい呼吸法、泳法を習得することがいかに大切かということがよくわかつたように思います。

○キャンプ

この日のためにお父さん、お母さん方は、テントのたて方、しまい方、飯合炊事の仕方等を学ばれました。

九十九名の小学校六年生、真夏の太陽が照りつける八月一日より三日間、文化センターキャンプ場につどいました強い風の中でのテント設営、炎天下でのオリエンテーリング大会、夜のキャンプファイヤー等々、お父さんお母さんまた指導の先生方のご指導のもとに、あまりわがままのいえない三日間でしたが、皆大した事故もなく頑張り通しました。それぞれの胸の中に残つたであろう苦しかつたことや楽しかつたことなどが彼等のこれからの生活の中に、必ずや生かされるであろうと考えます。